

川辺川ダム事業に関する有識者会議(第5回)

議 事 録

～委員による会議～

日 時：平成20年7月13日(日)13:00～

場 所：人吉市 熊本県球磨地域振興局

出席者：全委員及びアドバイザー

【金本座長】

それでは始めさせていただきます。

これから第5回目の会議ということになりますが、2日間をかけて、川辺川を含む球磨川流域を見ていただきました。さらに、先ほど、市町村長さんや住民団体の方からのお話を聴いて、多くの有意義な御意見を伺うことができました。この会議を4回やってきましたけれども、今回実際に現地を見ていただいて、また、いろいろな方々の御意見を伺って、いろいろな感想をお持ちだと思います。それを踏まえまして、改めて、それほど時間はないのですが、ここで、お感じになったことについて意見交換をしておきたいと思います。特にこのテーマについてこれだけやるということではなくて、次の議論に向けて意見交換をするという趣旨でございます。よろしく願いいたします。

その前に、鈴木和夫委員から、昨日、「森林と水」という本を頂きまして、昨晚お読みいただいたかどうかははっきり分かりませんが、鈴木委員に少し御説明いただく時間を取りたいと思います。鈴木委員よろしく願いいたします。

【鈴木(和)委員】

昨日、バスの中で「森林と水」という本をお届けしました。たくさん申し上げることはございませんけれども、せっかく森林の深い所に来たということで、内容について2、3分で説明させていただきたいと思います。

開きますと「目次」というのがございます。これは、実際のデータはサイエンティックなデータから引いているのですが、割合と一般の言葉で書かれておりまして、要は、様々な知識で確実に分かっている部分というのは、それほど多くはないということが1つございます。例えばどのようなことが書かれているかといいますと、「水循環」、「森林地からの水の流出」、「森林の変化と水」、「水源涵養機能」というようなことがございます。その中でどのような書き方をされているかといいますと、「各種森林と浸透との関係にはどのような関係があるか」、これはよく一般の方々からいろいろな御意見をいただくのですが、その最後の項目にこのようなことが書いています。「ブナ林流域が他の流域に比較して流量の適応性に優れているという具体的データは見あたらない」。一般的に言われていることはイエスの場合もあるしノーの場合もある。

割合に一般的に言われていることが、その場で確認しないと分からないということでもあります。相反するデータが存在するという事。

それから14ページのところでは「森林土壌の持つ貯水能力は、ダム等の人工物と比較してどの程度あるか」、ここにも記載があります。具体的なものになりますと24ページのところに、これは少し別なのですが、「広葉樹と針葉樹との対比」等があります。

けれども、「『広葉樹』『針葉樹』というカテゴリー分け、これに既に無理がある。立地環境に大きく支配される」というような説明になっています。ですから、ケースバイケースだと言うことになります。

それから60ページの方には、「森林の整備と水との関係」。やはりダムと森林というのは、本質的にモノが違います。従って、ダムと森林とは二人三脚でいかなければなかなかいい成果が出ない、というようなことがあります。

それから68ページになりますと、「水流出の安定化に関する森林とダムとの関係」。これも「即ち、森林とダムとは治山治水上の車の両輪だ」。つまり使い方の問題だということ。ですからどちらも絶対ではないわけで、それを上手に判断してプランすることだ、ということが、Q&Aという形で書いてございますので、何かの機会に御一読していただければと思います。全ての出典がサイエンティックデータから出しておりますので。以上でございます。

【金本座長】

どうもありがとうございます。

それではこれから、今回の調査を踏まえて、御自由に御意見を伺えればと思います。どなたからでも結構でございます。

【佐藤委員】

では私から、今回の調査で少し感じたことをお話したいと思います。

先ほど、ダム反対を主張される方々から、いろいろと、現在の河道についてどうすればダムなしでも充分水を流すことができるかということをお願いしたのですが、私も今回、この視察に当たって「もしダムを造らないとした時に、どういう対応策があるのか」という目で見させてもらいました。今まで、現在ある河道について、先程来いろいろな御提案があったもので対応したとしても、しかし、それを超えるようなことが将来起こり得るかもしれない。その時にどうしたらいいのか、という目で見させてもらいました。具体的に数値的なものがないので、対応策についての十分な判断が、まだできていませんけれども、いずれにせよ、ダムがないとした時に他にどういう対応策があるのか、あるいは、ダムと併せて他の対応をするということを考えて時に、例えばダムの規模を小さくするとかがあると思いますけれども、そのような目でいろいろ見させてもらいまして、非常にいい旅行ができたと思っています。

【金本座長】

そういったことの詳細については、これから御検討いただくということかと思えます。

【鷺谷委員】

自然環境のポイントとなるようなところを見ることができないと、さっき言っていました。今回下流から上流までずっと見せていただいて、他の川などとの比較においてですけれども、一番印象的だったことは、川の中に人がたくさんいるということです。ラフティングも随分盛んのように見えますし、川の中で釣りをしている人も場所によっては随分見ることができました。溪流の、流れのあるところでは、そういう姿、ラフティングとか釣りをしている人がいらっやっや、環境アセスメントの言葉で言うと、「自然とのふれあい活動が非常に盛んに行われている」という表現になるわけですが、そのことを考えますと、川をこれから、日本中どこの地域でもなかなか、都市以外は厳しい問題がたくさんあるのですが、この地域では、川を地域づくりに活かすようなポテンシャルというのがかなり高いのではないかと印象を受けました。

もし、川とともに、その恵みを活かすような地域づくりをしていくとすると、ポイントとなることは、山から海まで川でつながっている、連続性、連続性には水の連続性や土砂の動きの連続性や生き物の連続性というものがあるのですけれども、それを将来、どれくらいの時間をかけてかは分かりませんが、取り戻すような自然再生のようなことを計画して、治水とか利水、つまり河川の管理に関わるようなことも、その大きな計画の中に位置付けていくことができるのが一番いいのではないかと思います。

今は、河川整備計画について知事さんがこれから判断されるという議論をしているのですけれども、できれば、そういうやや広い、総合的な視点から考えていけるといいのではないかとこのように、見せていただいて感じました。

【鈴木（和）委員】

今回現地を拝見させていただいてつくづく思ったのですけれども、1つは、ものすごく時間軸がかかっている。これを設計した、あるいは始めた時から非常に長い時間が流れているということ認識しなくてはいけないなど。そこに関わった、住民始め多くの方々がいるわけですが、その上に（今が）あるという、知事がそこで最終的な判断を下される、ということが一点。

それからもう1点、この地域をこれからどういうふう展開していく、鷺谷委員の方からもちょっとありましたが、どういうふう展開していくんだということが、地域の方々と同時に、ガバナーの、全体的で、もっと広い見地から見てどうあるべきだと、不確定要素も非常に高いわけですが、そういうものを、ポリティカルに決めるべきだと、私は思っています。それが検証されるのは50年後、100年後に、「あってよかったな」と思うか、「いやこ

れだったらもうちょっとこういうふうにやっておけばよかったな」ということで検証されていくのかなと思います。特にこういうものに、時間のかかるものだし、その結果も、当初予測していたけれども、様々な環境の変動によって変わってくるものだと思いますので、そういうものを判断する、将来こうありたいということから判断するのではないかというふうに思っております。

【鬼頭委員】

第1回会議からこの会議の間に、住民の方からの意見書というのをいろいろ頂きました。その中で、ダムがない場合にどれだけ水を流せるかという数字の積み上げなども読ませていただきました。その前提になっているのが、1/80という場合でどれだけの水が出るかという、その数字だと思うのですね。ダムを造る方についても、その数字に基づいてやっている。

しかしながら、気候が変わっている現状において、気候は定常じゃない、非定常です。それから数字自体が将来変わっていくものであると思わなければいけないという気がしています。ダムなしでどれだけ水が流せるかという場合にも、そういった数字自体が、より大きい数字に耐えられるものでないといけないのではないかという気が、私はしています。では、ダムなしで本当により大きな数字に耐えられるのかなということは、見直してみないといけないのではないかなという思いがしています。

昨日下午流から上ってきまして、流れている水自体を見させていただきましたので、この流れている水を止めないようにしなければいけない、という印象は持ちました。ダムを造った場合に、治水専門のダムですと、普段は水を流しておくことができるような造りができると聞いておりますので、幸いといっちは何ですけれども、利水の方が落ちたということだと、治水専門ダムになるわけですから、30～40年前に考えていたダムの構造とは違う方向で、環境も考慮したやり方ができるのではないかなというふうに思います。

【鈴木（雅）委員】

2日間現地を拝見させていただいて、ものすごく単純に、相良村とか五木村というのは、まず地域再生が課題である。それより下流が治水という課題があって、地域ごとにいろいろ課題がある。同じ「ダム問題」といっても違うのではないかと思ったことが1つ。

もう1つは、例えば、以前人吉市のハザードマップというものをを見せていただいて、どこが溢れるかという絵を見せていただいていたわけですがけれども、現地を見まして、この読み方というのがちょっと変わったなあと感じているところです。それは、ハザードマップというのは、随分溢れたところ、面積的に広いところと、それほどはみ出していない場所があるのですけれども、街の建物の密集度合いとか、溢れていたという所が農地であるとか、特性も踏まえて考

えると、ハザードマップも併せて考えた時に、遊水地であるとか何とかということの評価のイメージというのが変わってくるところもあるのではないかと思った次第です。とりとめもございませんが、そんな印象です。

【池田委員】

私、いろいろ意見を言いましたので、大局的な、地形という観点から印象を申し上げたいと思います。球磨川の本流の方は盆地の中を流れていて、人吉よりも上流の方が、河道が広くて割と余裕があるという印象ですね。それに反して、川辺川というのは出口までほとんど山の中を流れているということで、やはり対応の仕方が変わってくるのかなという気がしました。

全体的な構造から見ますと、中流部が狭窄部で、そこに入る前の人吉盆地に周りから支流がいっぱい流れ込んできているということで、(中流域の)入り口の所で狭窄になっていますから、そこで(水の)出口がかなり絞られているということで、水がいっぱい集まってくる人吉盆地というのは厳しい状況にあるのかなという印象を受けました。

ですから、その処理をどうするか、今申し上げたように盆地の中を流れる球磨川本流と川辺川では、遊水地だとか、あるいはダムだとか、やり方がちょっと違うかもしれません。そういうことを地形学的には考えておかなければいけないのではないかという気がいたしました。

【森田委員】

私も、東京で会議をやっている時から、いろいろな方から「ぜひ現地を見てほしい」「見ないと分からない」という声をかなり頂きました。そして昨日今日と実際現地を見せていただいたわけでございます。確かに、東京で資料を見ているのとは随分違った印象を持ちました。「素晴らしい環境」というお話でしたけれども、確かに、球磨川の溪流にしても、素晴らしい環境だと思いました。他方では、実際に水害にあった所を見せていただいて、もし(水害が)起これば、その被害が大変深刻である、それもつい1月くらい前にそういうということが起こったということを知って、そちらの方でも大変大きな感銘といたしますか、印象を受けました。

(それで)どうするか、それについての御専門の方の御発言がありましたけれども、私自身が感じたことを一言だけ言いますと、あまりにも長い間この問題に関わり過ぎている。そしてその間に日本社会自体が大きく変わってきております。人口減少、少子高齢化といったことが言われておりますけれども、地域社会をどうしていくか、それが決して中山間地域の小さな町とか村とかだけではなくて、地方都市そのものが非常に衰退に瀕してきている。その中で地域をどうやって維持していくか、さらには活性化していくか、そのためには人が住みやすい、そして、もっとそちらに住みたくなるような振興策を考えていかなければならないわけです。そうした観点から、このダムのことをなるべく早く決着をつけるということが重要ではないかと思っております。

その間、この問題についても、先ほども御意見がありましたけれども、いろいろな新しい問題が出てきました。地球温暖化というのは最近出てきたことで、環境についても途中で出てきた話です。また、先ほども少しお話が出ましたけれども、ダム造り方にしても、あるいは、ダムのコンセプトにしても新しい技術なり理論が出てきていると思います。それを反映する形でこれからこのことを考えていく、そういう可能性を追求してもよいのではないかと。こういう言い方をすると失礼かもしれませんが、出発点の問題をずっと同じような形で議論されてきたのではないかと。今日はさすがにその話は出てきませんでしたけれども、基本高水を巡る議論というのはそういう気がして仕方がありません。以上でございます。

【ブラウン氏】 ※現地での同時通訳の言葉をそのまま載せています。

私にも発言のチャンスを頂きましてありがとうございます。私はこの会議にはオブザーバーとして参加させていただいておりますので、オブザーバーとしてのコメントを申し上げたいと思います。

私は、今最後に発言された委員の意見に賛成いたします。日本の社会の皆さんは、既に、新しい未来を勝ち取られております。それは生態系、そして経済の繁栄であります。非常にバランスの取れた経済状況と繁栄というものを皆さんは既に手にしておられて、それはまた、福祉という意味でも同じように繁栄がとれております。

今回のこの会合ですけれども、最初から非常にいい状態で組織されていると思います。私は今回のみ参加しておりますけれども、今回の参加につきましても、外国人の私に対しても、英語の情報であるとか様々な方法で良く理解ができるような組織がなされていると思います。こういったことを、世界中の多くの方がこの状況を学び取っていくということ、ですからインターネットとおして英文のドキュメントなどをどんどん出していかれることがいいかと思えます。

私自身は、アジア地域におきまして、何年もダムや河川工学の問題に関わって参りました。でもこの地域の問題に関しては、まだまだ知らないことがたくさんございます。

特に今回、住民の方の、反対意見を持っていらっしゃる方にも公表の場が公平に与えられたということは、大変好ましく思っております。世界中で、様々な問題に関しまして、常に反対側と賛成側というのはあるものですから、やはり均等に発言の機会というのは与えられるべきだと思っております。

今回のディスカッションですけれども、当然皆さんは、ダム建設、あるいは建設しない場合のリスク、危険ということについて研究しておられます。特に1/80というのを1つの基準にしておられますけれども、世界中のいろいろな所では、この基準が、例えば1/200とか、あるいは1/1000という長いものを取っておりますので、リスクのレベルも非常に複雑化しているようなものがあるのが現状です。

私の最後のコメントですけれども、我々人類は皆この地球上に住んでおります。そしてまた、ここにおられる皆さんはこの地域に住んでおります。そして皆さんが持っているこの土地を、生涯をかけて守っていこうと思っていちゃいます。ですから当然、1/80という洪水のリスクについて話がされておりますけれども、これは当然保証されなければいけません、皆さんが生涯の中で直面していかれる問題というのは、これよりも小さなものかもしれませんが、それに対してでも安全の保証というものがなされなければいけないと、私は思います。

【金本座長】

今の(ブラウン氏が言った)「インシュランス」というのは「保険」だと思います。火災保険の話と水害保険の話と、そういう話だったと思います。

[通訳]

すみません、今ちょっと通訳の言葉が足りませんでした。「『火災保険』あるいは『災害保険』といったものを、1/80といったスパンではなくて、身近に起こることに対してでも持っていかなければいけない」ということでございます。

【金本座長】

今のブラウンさんの最後の方のお話ですが、私の方で補足しますと、「火災保険をかけられている方がどれくらいいるか分かりませんが、火災保険は割とかけられていると思います。火災に遭う確率というのは、80年に1回水害に遭う確率よりも遙かに小さい。1/80という水害の確率はかなり大きな確率である」といったことを、ブラウンさんは言われていたようであります。「それについて世界のどこの国にしても、あまりちゃんと認識できないようだ」といった意味のこともおっしゃっておられました。

(※発言後、ブラウン氏に内容確認、ブラウン氏了解)

【金本座長】

その他何かございますでしょうか。

たくさんのことを見させていただきましたので、今、短い時間で吐き出せと言われてもなかなか、ということかと思いますが、やはり現場を見せていただくと、リアルなリスクがどこにどういう具合にあるということが実感として分かるということと、環境面等それと対立するような様々な事柄についても貴重なものがたくさんあるということも、よく分かったと思います。なるべく水害のリスクを小さくしながら、この球磨川の優れた環境をどう守っていくか、あるいは、より良くしていくといった道がどういうものかということを考えなければいけない、ということを感じさせていただきました。

解決策というのはなかなか難しいかとは思いますが、これから考えて

いきたいと思っております。

【森田委員】

今回現地を拝見させていただきまして、まだこれから、例えば財政問題であるとか地域の問題とか、議論が少し残っているかと思えますけれども、それは、次回、問題提起といいますか、資料を出していただいて議論することになるかと思えますけれども、昨日今日の視察も含めまして、私自身は、委員の先生方の間で、共通した理解と、意見が違うところが出てきたと思っております、ここで一人ひとりどう違うかという議論をするわけにはいかないと思えますけれども、議事録その他を整理していただいて、事務局の方で、共通部分については確認をしていく、それ以外のところについてどういう可能性があるのか、先ほど私も少し言わせていただきましたけれども、今までの枠だけではない、新しい発言とか御提案もあったと思えますので、そういうものを組み入れる形で、ぜひ次回整理をしていただければと思います。それを踏まえまして、最終的に知事に何を申し上げるかということ、そろそろ考えていく時期かと思えます。司会者の言うようなことを言ってしまいました。

【金本座長】

その他何かございますでしょうか。

それでは、なかなか重い課題であるということと、現場のたくさんの情報を伝えたということで、これから皆さんにじっくりお考えいただくということで、今日の会議はこれまでにさせていただきたいと思えます。

次回以降の議題について、事務局から御説明をいただければと思います。資料があるようでございます。配布をお願いします。

【事務局】

(※会議資料2を配布)

今、お手元にお配りしておりますのは、今後の有識者会議の進め方ということでございます。第1回の会議におきまして、5回までは「治水」、「環境」及び「現地調査」を行い、それ以降は5回までの様子を見て決めるということとしておりました。先ほど話がありましたように、残り「地域振興」と「財政」のテーマもございます。

そのため6回目以降につきまして、ここにお示ししておりますが、今までの補足説明、「地域振興関係」及び「財政的課題」、こういうものについて6回目の前半で御説明申し上げ、その後、これまでの議論を踏まえまして意見の整理に向け、その中からさらに論点を絞り込んでいきたいと考えております。残り3回程度お願いし、7回目において絞り込んだ論点についてさらに議論を深め、8回目、これが最終回になると思えますが、ここにおいて意見の整理ということで考えました事務局案でございます。

【金本座長】

どうもありがとうございました。このスケジュール、議題について、何か委員の方から御意見はございませんでしょうか。

大体このような感じでよろしいでしょうか。

では、会議はこれまでにさせていただきたいと思います。これからの進め方については、事務局の方から御提案があった形で進めたいと思いますが、これからの議論はなかなか大変でございますので、事務局の方には、鋭意準備をお願いしたいと思います。

最後に蒲島知事の方から御挨拶をお願いします。

【蒲島知事】

委員の方々には、大変御多忙の中、2日間にわたって現地を視察していただき、誠にありがとうございました。

昨日、私も、早く来ればよかったのですがけれども、昨日まで韓国出張で夜にしか間に合いませんでしたけれども、夜もとても率直な議論の場があってよかったと思います。

皆様方も現地視察を通して、球磨川、川辺川流域の豊かな自然、様々な恵みを感じられたことと思います。同時に、地元の皆様が長年にわたって洪水に苦しんでこられたということも、御理解いただけたかと思います。

また、今日の、意見を聴く場を設けることによって、ダムを推進される方の立場、それからダムに反対される方の立場、両方が、皆さん御理解できたのではないかと考えています。

9月は段々迫ってきます。議論をすればするほど、議論を聴けば聴くほど、問題の深さを知れば知るほど、この問題はとても決断が難しいと感じています。しかし、森田委員がおっしゃったように、あまりにも長い間この問題が決定されてこなかった、決断がなかったというのが問題だということも、今、私もひしと感じているところです。

私が9月に決断できますように、これからさらに、今日の現地調査を踏まえて、いい判断、いい議論、それからいい報告書を作っていただきたいと思います。多分皆さんの報告書が、これからの治水対策、ダム問題、様々な問題の出発点となるものと確信しております。そのような大きな方向性を持った形で、この川辺川問題を片づけることによって、これから将来に向かって、大きな展望、跳躍がみられるのではないかと考えています。

本日はどうもありがとうございました。

【金本座長】

どうもありがとうございました。

【事務局】

事務局でございます。日程調整につきまして、次回第6回は8月5日の火曜

日、午前9時30分、ルポール麴町で開催することとしております。どうぞよろしく申し上げます。

【金本座長】

はい。どうもありがとうございます。

これで、第5回会議を終了させていただきます。

2日間にわたり、大変ありがとうございます。

(以上)